

キヌサヤエンドウのハナアザミウマ被害防止対策

～ 光反射マルチと防風ネットで被害軽減 ～

1. はじめに

県中部の日高地域ではキヌサヤエンドウの栽培が盛んである。近年、夏まき年内どり栽培においてガク枯れや白ぶくれ症（表紙）が多く発生し、品質低下の要因となっている。ガク枯れはハナアザミウマによるガク裏の食害、白ぶくれ症はハナアザミウマの莢への産卵が原因である。本種は主に花内に生息することから、薬剤防除のみでは高い防除効果が得られない。そこで、アザミウマ類に対して忌避効果がある“光反射マルチ”ならびに飛来防止効果が期待される“防風ネット”の現地試験を実施したので紹介する。

2. 光反射マルチによる被害軽減効果

1) 試験方法

印南町西ノ地の露地栽培において品種‘紀州さや美人’（播種日：2018年8月25～27日）を用い、試験を行った。

試験区の設定は、タイベック区、シルバーマルチ区、対照区（農家慣行マルチ）とし、供試資材は、それぞれタイベック700AG（丸和バイオケミカル株式会社）、ポーチュールシルバーL（東罐興産株式会社）、チョーハンシャ（みかど化工株式会社）を用いた。

タイベック区およびシルバーマルチ区は、9月14

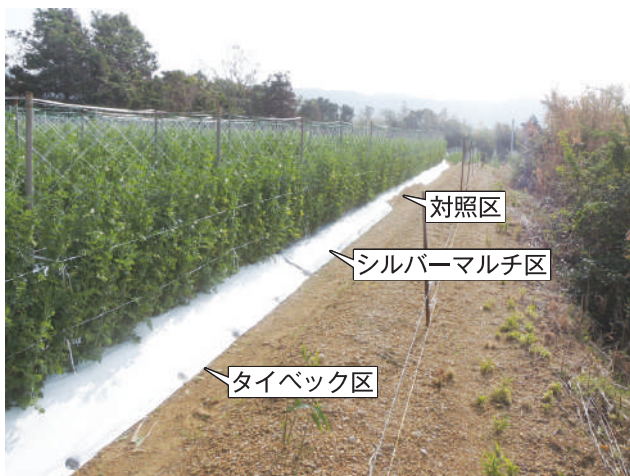


図1 光反射マルチ設置状況

日に50cm×5mに切った資材を畝の両側に1枚ずつ、農家慣行マルチの上に被せてピンを用いて設置した（図1）。

対照区は農家慣行マルチを土寄せで設置し、マルチの露出幅は60cmであった。

2) 結果

タイベック区、シルバーマルチ区ともに、ガク枯れ莢率が対照区の1/2以下になった（図2）。また、タイベック区およびシルバーマルチ区の白ぶくれ症莢率は、11月8日のシルバーマルチ区を除き、全ての調査日で、対照区と比べて低く推移した（図3）。

これらのことから、タイベック700AGおよびポーチュールシルバーLの畝への設置は、キヌサヤエンドウのガク枯れおよび白ぶくれ症の防止に効果があると考えられた。

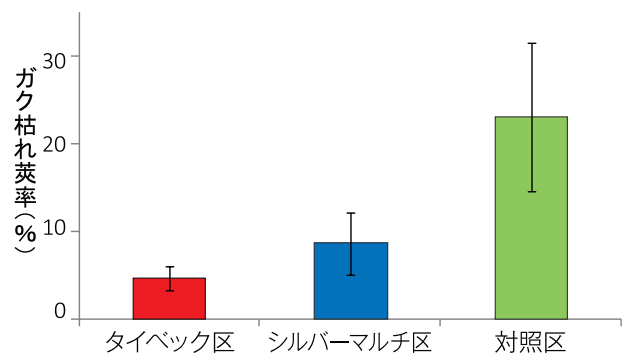


図2 光反射マルチによるガク枯れ防止効果（2018年10月16日調査）

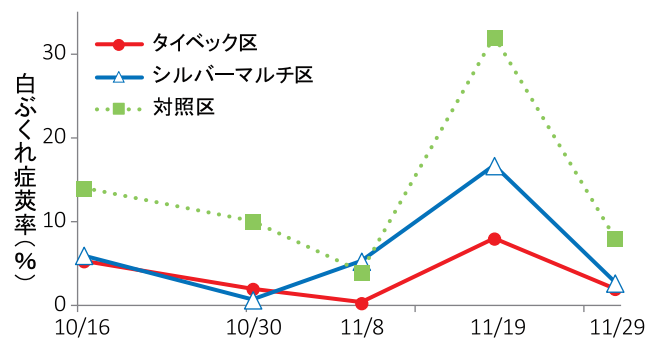


図3 光反射マルチによる白ぶくれ症防止効果（2018年）

3. 防風ネット被覆による被害軽減効果

1) 試験方法

印南町印南の露地栽培において品種「紀州さや美人」（播種日：2018年8月21、22日）を用い、試験を行った。

試験区の設定は、防風ネット被覆区、無被覆区とし、防風ネット被覆区の供試資材は、白色防風ネット（実目合3.5×4.5mm、幅1m、ポリエチレン製、ラッセル網、日本マタイ株式会社）を用いた。

なお、防風ネット被覆区、無被覆区とも、9月23日までは4mm目合い青色防風ネットでトンネル被覆を行った。

防風ネット被覆区は10月4日に、ウラナミシジミ防除のために開発した「白色防風ネット挟み込み被覆栽培法」に従って、白色防風ネット2枚で支柱を挟み込むように被覆した（農試ニュース129号参照）。

ネット高は畝上から50cmとし、ネットの下端は畝に50cm被せて設置した（図4）。ネット高はエンドウの生長点がネットを越えるごとに高さを変更し、10月21日に80cm、11月8日に140cm（最上端）まで上げ、11月21日にネットを取り外した。



図4 白色防風ネット被覆状況

2) 結果

防風ネット被覆区では無被覆区と比べて、ガク枯れ率が1/5程度になった（図5）。

また、防風ネット被覆区の白ぶくれ症率は、調査期間を通じて無被覆区に比べ低く推移し、無被覆区で最も白ぶくれ症率が高かった11月19日で1/8程度の発生であった（図6）。

これらのことから、白色防風ネット挟み込み被覆栽培法はキヌサヤエンドウのガク枯れおよび白ぶくれ症の防止に効果があると考えられた。

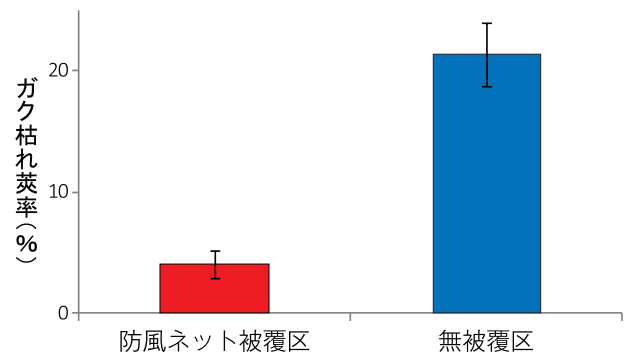


図5 防風ネット被覆によるガク枯れ防止効果(2018年10月16日調査)

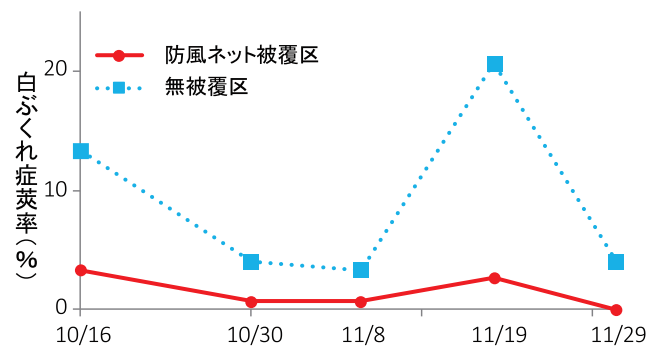


図6 防風ネット被覆による白ぶくれ症防止効果(2018年)

4. おわりに

現地試験により光反射マルチならびに白色防風ネット挟み込み被覆栽培法は、ハナアザミウマによるガク枯れおよび白ぶくれ症の被害を軽減できることが確認された。しかし、これらの技術だけでは、その程度は十分とはいえない。今後は効率的な設置方法や他の防除技術との組み合わせを検討し、防除効果の向上を目指す。

(環境部 内西 浩一)